

息子と絵本 -お母さまからの声-



相談支援員の方にこのサービスを教えて頂き、図書配送サービスを利用させていただいています。息子は469gで生まれ、NICUに8カ月入院。今も経管栄養をしています。首の座りも遅く、横になって遊ぶことが多かったため絵本はとて好きでよく読んでいました。書店で買っていましたが、すぐに飽きたり、偏ったジャンルになったり。図書館で借りれたらなどずっと思っていました。図書館へ行きたい気持ちもありましたが、車からバギー(小児用車いす)への乗り降りの大変さや、コロナ禍の中、息子を外へ連れ出す気にもなれず、結局家の中で過ごすことがほとんどでした。

そんな中、このサービスを教えて頂き、利用させて頂くことになりました。本にたくさんの知識のある司書の方々に毎月10冊、おすすめの絵本や、息子の好みの絵本を選んで自宅まで届けてもらえます。梅雨には雨がテーマの絵本、夏は魚や海の生き物がテーマになっている絵本など、その季節にあった絵本も入っていて、息子も色々なジャンルの絵本に触れる事ができています。毎月違う司書さんが選んでくださっていて、それぞれのおすすめ(推しの絵本)を持ってきてくださるので、今では息子と同じくらい私も読むのが楽しみになっています(笑)。

配送日には司書さんとその月に息子がハマった絵本の話をしたり、息子も嬉しそうに「バイバイ」と手をタッチしたり、とても楽しい時間を過ごさせてもらっています。家で過ごす事が多い中でも、絵本を通して見たり、触れたり、とても息子の刺激になっていて、この配送サービスを利用してよかったなと思います。これからも色々なジャンルの絵本に触れて、絵本を通して息子の中に色々な楽しい世界が広がっていったら嬉しいなと思います。



～八女市立図書館の司書さんより～

八女市立図書館の図書配送サービスをご利用いただきありがとうございます。配送サービスは、本は読みたいけれど来館が難しい方に向けて本を届けるサービスです。今回、リーベルの相談支援専門員さんに紹介していただき、息子さんに会うことができました。はじめて会った時は、人見知りからはずかしそうにされていましたが、絵本を通してすぐに仲良くなれました。私は毎回、息子さんの喜んでくれた絵本やその様子を他の司書にも伝えていきます。直接会うことはないけれど、私から話を聞くことで、他の司書たちもいつも息子さんを身近に感じています。



～編集後記～

暑い夏も終わり、少し肌寒い秋・・・。

今年も残り2カ月ほど・・・年々、1年が過ぎるのが早く感じるようになりました。

ハロウィンジャンボ宝くじ買ってみたけど、『当たるかな(/ω\)』 (Y.O)



リーベル通信



発行責任者:NPO法人 リーベル
電話:0943-22-2610
FAX:0943-22-2664

住所:八女市本町17-2
E-mail:liber-yame@marble.ocn.ne.jp
URL:http://liber-yame.net

～リーベルネットワーク合同研修会を開催

8月3日に筑後特別支援学校特別支援コーディネーターの秋山辰郎氏を講師に迎え、八女市教育委員会と合同で研修会を開催しました。

「障がいを持った子ども達との出会いから考えてきたこと」をテーマにご講演いただき、その中でも「非認知能力」という言葉がとても印象的でした。「認知能力」とは、IQ(知能指数)に代表されるような、点数などで数値化できる知的能力。「非認知能力」とは、認知能力以外の能力を広く示す言葉で、テストなどで数値化することが難しい内面的なスキルを指します。具体的には「目標を決めて取り組む」「意欲を見せる」「新しい発想をする」「周りの人と円滑なコミュニケーションをとる」といった力のことで、子どもが人生を豊かにするうえでとても大切な能力であるとお話されました。

「非認知能力」は、遊びや好きなこと、周囲との関りの中で育まれます。小中学校での「集団での遊び」が、非認知能力が一番育つ時であり、これが小中学校の持つ専門性であると自信を持つ必要があるとお話されました。学校の役割としては、「個人が学ぶと共に友達と協力しながらともに学ぶところ」「友だちとの違いを認め合うことや支え合うことの大切さを学ぶところ」「思いやりの心を養い友達と協力することの大切さを学ぶことができる場所」などと教えていただきました。

今回の研修会に参加された小中学校の先生からは「10～30代の死因のトップは自殺である。義務教育が『生きる力をはぐくむ』ものになっているのならば、そういう事態にはならないはず」「子どもたちの何をどこでどう育てるのか、友達とのつながりを共に学ぶ学校を作るためにどう動き、教職員や保護者に働きかけようか考える研修会になりました」等の声をいただきました。

今年度は久しぶりに集合研修を開催することができ、猛暑の中、時間を作って参加していただいた皆様へ感謝すると共に、教育と福祉が今後よりいっそうのつながりを強め、連携を図ることで、一人でも多くの子どもたちが自分らしく成長していけるようにサポートしていきたいと感じています。



ティーチャーズ・トレーニングを実施

ティーチャーズ・トレーニングは、「ペアレントトレーニング」の技法を保育・教育者が集団で使えるようにプログラムされたものです。今年度は、みつとも保育園の保育士、筑水会病院の訪問看護師の方が受講されました。訪問看護師からは、対象者が子どもとのかかわりに悩むことが多く、何か助言できればと参加を希望されました。下記に受講者の感想を掲載します。

- ・子どもの性格ではなく、指示に沿わないとき、「～しないで何をしているのか」行動に注目することで、より一層、子どものことを理解しやすくなった。行動をほめることで、好ましい行動が増えていき、好ましくない行動が減ってくるということを意識して、また新たな気持ちで保育にあたれる良い機会となりました。(保育士)
- ・有効的な「無視」の方法を学び、どうしたらいいのかと思うと、次は「指示」の出し方を学ぶなどよく考えられたプログラムと思った。気づきを深められた。また、次年度も受講したい。(保育士)
- ・ほめるとは、簡単な感じもするけど、具体的にほめるとなると難しいと感じました。25%ルールでいいと言われましたが、自分がいかに完璧を求めていたのかも改めて分かることが出来ました。ほめの貯金を増やしていけたらと思います。また、利用者さんは、自己評価が低い方が多いと思います。自分に自信をもって生活してもらいたいと思い、ほめて自信がついたらいいと思います。(訪問看護師)



アウトリーチサポートチーム 相談ビズケット合同研修会

5月16日、福岡県相談支援体制整備事業アドバイザー(福岡市東区第1障がい者基幹相談支援センターセンター長)の池田顕吾氏を講師に迎え、「あらためて地域でのグループスーパービジョンの取り組みについて考える」をテーマに研修会を開催しました。

「近年、問題の複雑化、支援の広範囲化などによりサービスを単に組み合わせるだけでは対応できないケースが増加。相談支援専門員の経験年数が長いと、支援方法が固定化されたり支援に個性がでたり…。果たしてそれで良いのか？グループスーパービジョンの1番の目的は支援者の成長。実践を他者に伝え意見を聞くことで自己を振り返り、気づきが深まる。グループスーパービジョンを行うことで参加者全員の支援力が底上げされ、結果的には地域の支援力向上に繋がっていく」とお話しがあり、グループスーパービジョンの必要性を強く感じました。その後、グループスーパービジョンを行う際のポイントやグランドルールについて説明があり、池田氏をファシリテーターとして参加者全員でグループスーパービジョンを行いました。今ではこの研修会で学んだ内容を実践しています。

～障がい者が虐待を受けたり、受けているところを目撃した際はお電話ください～

八女市障害者虐待通報ホットライン
☎090-2580-0294

★24時間・365日の対応★



～相談ビズケット研修報告～

令和4年12月16日に改正障害者総合支援法が交付され、これに伴い、精神保健福祉法、障害者雇用促進法、難病法、児童福祉法と法律が一部改正されました。相談ビズケットでは、改正点を把握するとともに、改正された背景を知り、福祉現場に何が求められているのか、その意味を捉え、実践に活かしていくため、9月6日に九州産業大学臨床心理学科の橋本みきえ教授をお招きし、「障害者総合支援法の改正とその背景」をテーマにご講義いただきました。特に今回は精神保健福祉法の改正もあり、精神科病院の精神保健福祉士にもご参加いただき、共に学ぶ機会となりました。

障害者総合支援法関連では、基幹相談支援センター、地域生活支援拠点センターの設置が努力義務になり、障害者就業・生活支援センターとの連携強化が求められています。新たに「就労選択支援」というサービスが規定されました。障害者雇用促進法関連では、障害者雇用率が年々上昇する中で、短時間勤務も雇用率として反映されることとなりました。「この企業で働けるか」から「どうすればこの企業で働けるか」といった視点が求められています。精神保健福祉法関連では、家族がいなくても意思表示がない場合は市町村長の同意による医療保護入院が認められることとなりました。

改正の同時期に障害者に関する権利条約の国連勧告がなされています。全体的所見としては「日本の障害者施策の全般にパターナリズムと、障害者人権モデルとの調和の欠如が見られる」というもので、非自発的入院は自由を剥奪している、特別支援教育はインクルーシブ教育への即刻転換を、障害者が保護された作業場や福祉サービスに隔離されている等の指摘がなされています。

今回の法改正は、医療保護入院の市町村長同意等、国際基準から乖離している部分もあるという認識が必要で、国連勧告での指摘部分に依存した支援の現状もあると思います。橋本先生が伝えられた「今、取り組んでいること、取り組もうとしていることは、誰のためなのか、誰の意見が優先されているかについて、常時点検する力を」というメッセージを軸にして、私たちの意識を国際基準に近づけていく努力が必要であると思えた研修でした。

『卓球クラブが始まりました！』

地域活動支援センターかたろいでは、8月から金曜日(隔週・月2回)の16:00～17:00の1時間で本格的な卓球を行う取り組みを始めました。場所は八女市総合体育館で、参加費は無料(申し込みは必要)です。卓球台は『かたろい』にもありますが、おもいきり体を動かすにはスペースが狭いという難点がありました。そこで、職員の内井手口(元卓球部主将)が主導となり、広いスペースでの卓球活動を始めることになりました。参加者は元卓球部の方、かたろいで卓球が上達した方など、『かたろい』卓球台よりもっと体を動かしたい方々が汗を流しながら楽しんでいます。

今後は様々な事業所と卓球を通じての交流(ラリー、試合)も検討したいと思っています。興味のある方は是非、ご参加ください！



きせつ あき
季節は秋...

どくしょ あき 読書の秋です



2019年6月に「読書バリアフリー法」が成立しました。これは障がいの有無にかかわらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにするための法律です。さまざまな障がいのある方が、利用しやすい形式で本の内容にアクセスできるようにすることが目的です。

そこで今回、八女市立図書館で利用できるさまざまな本やサービスについてご紹介します。

りよう ほん ～利用できるさまざまな本～

だいかつじほん ・大活字本

目の見えにくい方にも読みやすいように、通常よりも大きな活字で印刷されています。“本は字が小さくて読みにくい”という方におススメです。

てんじ えほん ・点字つき絵本

見て楽しむことのできる絵と文字の上に、透明樹脂インクで、触って楽しむことのできる絵(触図)と文字(点字)を、盛り上げ印刷しています。見える人も見えない人も、一緒に楽しめる絵本です。

えほん ・さわる絵本

絵本の絵の部分が手で触ってわかるように、布や革、毛糸などの素材を用いて作られた絵本です。

エルエル ・LLブック

やさしい言葉でわかりやすく書かれた本です。絵文字や写真・図を使って理解を助けています。

ろうどくシーティー ・朗読CD

プロのナレーター・声優によって、物語や詩などの朗読が吹き込まれた録音資料です。視力が弱い方や高齢の方も、ラジオや音楽を聴くように、耳だけで「聞く読書」を楽しむことができます。



【読書のバリアフリーコーナー】

しかくしょう しゃせんようでんしとじょかん ～やめし視覚障がい者専用電子図書館～

スマートフォン等の音声読み上げ機能を使って楽しめる電子図書サービスです。お手持ちのスマートフォンやタブレット等で「アクセシブルライブラリー」にアクセスすることにより、オンラインで電子書籍が利用できます。電子図書のタイトル数は約20,000点(開始時)で、小説や趣味の本、実用書等があります。無料でご利用いただけますが、インターネットに接続するための通信料は利用者負担となります。

【利用できる方】八女市在住で視覚障がいの身体障害者手帳をお持ちの方

【申込方法】来館または郵送にて申込書と身体障害者手帳の写しを提出

(申込書は八女市立図書館のホームページからダウンロードできます)

～やめし電子図書館～

図書館に行かなくても、インターネットを通じてお持ちのパソコンやタブレット、スマートフォン等から電子書籍を無料で借りて読むことができます。(一部、音声読み上げ機能付き)

【利用できる方】

八女市に在住の方、または通勤通学されている方で、八女市立図書館の利用カードをお持ちの方



やめしりつとしまかんとしよかんホームページ
【八女市立図書館HP】



でんしとしまかんとしよかん
【やめし電子図書館】

パソコンやタブレットスマートフォンで電子書籍を借りることができます。

図書館に行かなくても借りられる。自動返却で忘れ無し。24時間、365日利用できる！

利用方法
八女市立図書館のホームページから「やめし電子図書館」のボタンをクリックしてログインしてください。ログインにはアカウント(利用カード番号)とパスワード(電話番号と生年月日)が必要です。

利用内容
貸出冊数(かじださつすう) 3冊まで
貸出期間(かじだしきかん) 15日間
予約冊数(よやくさつすう) 3冊まで
貸出経費(かじだしえんぎやう) 次の予約が入っていない場合は1回だけです。

こんな本もあるよ

- 旅行ガイド**
地球の歩き方 るるぶ ココミル 楽家 etc. 両方にないからラクテン!
- コミック**
ブラックジャックによるしく Pony Tail ザ・シェフ 史記 DIVA etc. 急に空いた時間に!
- 国内・海外雑誌**
週刊ダイヤモンド プレジデント サンデー毎日 野菜がより dancyu FIGARO BikelIN etc. 高級雑誌が読めちゃう!
- 外国語で書かれた小説や絵本**
英語 中国語 韓国語 軽い気持ちでチャレンジ!

もう使ってみた?

～障がいがある方への図書配送サービス～

自力で外出が困難な障がいのある方を対象に、図書等をご自宅まで配送して貸出するサービスです。

【利用できる方】

八女市に在住し、図書館への来館が困難で障害者手帳の交付を受けている方

【利用方法】

- ・借りるとき、返す時は、職員が図書等をお届け・回収。近隣の図書館(分館)へ直接返却も可能
- ・本を選ぶ際は、図書館ホームページから検索が可能。(電話でもお気軽にご相談ください)

【申込方法】

- ① 八女市立図書館本館への来館または電話、FAX等で連絡
 - ② 来館される場合: 申込書の記入と障害者手帳を提示 (代理申請可能)
郵送の場合: 申込書と障害者手帳のコピーを送付(申込書はホームページからダウンロード可)
- ※ 申込いただいた方の対象要件を確認の上、審査結果を通知します。利用可の通知が届きましたらサービスを利用することができます。



冊子のご紹介



「こんな高校あったんだ！」

ちくご地域ユースサポート不登校支援部会の方が、筑後地域から通える定時制や通信制、全日制と通信制を併用している高校をまとめたパンフレットを作成されました。

★1冊300円で購入可能です(活動協力金として)★

※ 購入やお問い合わせは直接、下記の発行所をお願いします。

【発行所】 ちくご地域ユースサポート不登校支援部会

〒833-0006 福岡県筑後市新溝613

TEL:0942-27-8432 FAX:0942-27-8434